

「腰痛の職員をゼロにする！」

目的に向かい少しずつ動き出した サンシャインプラザでの取り組み

社会福祉法人 学而会
特別養護老人ホーム サンシャインプラザ

本事業に参加したきっかけ

平成21年度介護福祉士教育カリキュラム改正において教育の中で福祉用具を使用した教育を開始している。

本施設は介護福祉士養成校がグループ内にあり、福祉用具の技術を学んだ卒業生がいるにも関わらず、現場での普及が進んでいない・・・。

いいものと分かっているのに
普及していない・・・

**マネジメント、管理者、組織全体で
取り組む仕組み、組織づくりが必要！！**

取り組み前の状況

- 抱える介護を行い、利用者の打撲、皮膚の剥離など介護中の事故もあった。
- 腰痛に悩む職員が多くいる。
- スライディングシートはユニットにあったが、一部だけで施設全体の取り組みではない。
- 勉強会への参加や情報の伝達が、全体に広がらない（施設の方向性が示せていない）



ノーリフティング委員会を結成

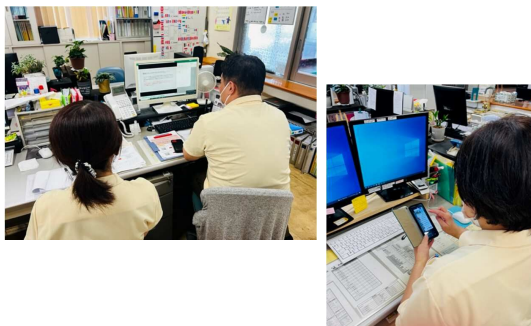


施設長を含めた
多職種でプロ
ジェクトチーム
を立ち上げた

役割
統括：施設長
プランニング：介護長・介護支援専門員
健康管理：看護師長
福祉用具管理：相談員、機能訓練指導員
教育担当：介護チーフリーダー、機能訓練指導員

全職員へノーリフティングケアの取り組み周知

- 施設長よりノーリフティングケアに取り組むことについて全体に周知。
- 「ノーリフティングケア必要性と目的の理解」についてテキストを元にパワーポイントのスライドを作成。職員はいつでも見ることができるE-ラーニングの形式にして職員がいつでも見れるようにした。
- また理解度について各自スマホでできる理解度チェック(Googleフォーム)を作成、各職員に受検してもらった。



ノーリフティングケア E-ラーニング 研修

サンシャインプラザは今年度より「ノーリフティングケア」の取り組みを始めます。職員ひとりの「ノーリフティングケア」の理解を深めるために動画視聴(YouTube)の研修を行います。下記の内容。

①「ノーリフティングケアの必要性と目的の理解」のリスクマネジメント

②③の動画を視聴後、確認テストを受けてください(グループワーク) ※テストは全員回答後、送信をする必要があります。
※動画は共有フォルダー「ノーリフティングケア」研修動画にもあります。
※テストの開始は9月まで行われます。

研修動画	確認テスト
①必要性と目的の理解 https://youtu.be/4ic7Dm0k4k4 	①確認テスト https://forms.gle/4F7t8m4Bw4kUW3A
②リスクマネジメント https://youtu.be/93mmMtlLafw 	②確認テスト https://forms.gle/4F7t8m4Bw4kUW3A

・リスクマネジメント掲示板

各職員がリスクに気づいた際に記入してもらい、投書し各職員が見れるよう掲示板を設置。リスクを声にして出せる環境づくりを始めた。



職員の声を拾う仕組みづくりができた！
リスクを検討し改善した結果のフィードバックを職員へ通知していくことが今後の課題

・福祉用具の整備、把握

各ユニットにある福祉用具の洗い出しを行い、まとめ一覧表にした。現在ある福祉用具の点検、清掃表を作成し、整備、清掃チェックを習慣化した。



丁目 車椅子点検チェックシート

点検項目	年 月											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
日付とサイン												
車椅子点検済	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
全体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
車椅子点検済	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
車椅子点検済	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
タイヤ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ブレーキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※車椅子点検時、①～④の項目は必ず確認してください。
※手洗い場のある場合は手洗い場を確認し、点検記録簿に記載してください。
※車椅子は定期的に点検を行う必要があります。車椅子は定期的に点検を行う必要があります。

ユニットのどの場所に何があるかを示す「図」の作成が今後の課題

ノーリフティングケア技術研修

技術研修を受講した技術担当職員が全職員に向けて施設内講習を2回に分けて開催



ノーリフティングケアの技術を全体で体験できた！
定期的に技術の共有を図るために勉強会の習慣化
独自に動画を作成していつでも見れるような工夫が必要

マネジメント（ケアプランの変化）

介護技術教育担当、福祉用具担当と介護支援専門員と連携し、少しずつ福祉用具を活用したケアプラン内容にし、職員が必ず実行できるように行った。

短期目標	(期間)		サービス内容
	開始	終了	
離床する機会をつくる。	R 5/10/1	1	①リクライニングタイプの車椅子を使用する。 ②車椅子と座布団の間には滑り止めシートを敷く。 ③移乗時はスライドボードを使用し、二人介助で水平移動を行う。 ④入浴はストレッチャータイプ
	R 5/12/31	31	



一部の利用者からプランに導入が開始できた！
 今後は入居者全員を対象としてプラン作成していきます

これまで使用したことのない職員に福祉用具に触れてもらう機会づくり 職員、利用者にも喜ばれた福祉用具

ひと月程度デモ機に触れてもらう、体験会・勉強会に参加してもらう機会を作った

利用者の声

利用者Aさん
 「きれいに座ることができて良かったです。楽でした。」
 利用者Bさん
 「怖くなかった」「安心できた！」
 利用者Cさん
 怖くなかったので介護者への抵抗がなかった「つねる」「咬む」など
 利用者Dさん
 「トイレに行くのが楽だった」



利用者自身が **楽** と感じたこと。
怖くない と感じたことが福祉用具を使ったメリット

職員の声

職員A
 「女性でも安心して移乗することができた」
 職員B
 「全く腰は痛くなかった」
 職員C
 「いつもは二人でしなければならなかったが、これなら一人でする！」
 利用者Dさん
 「離床の介助をすることにいつも不安を抱えていたが、これなら安心できると思った」



利用者と職員双方にもメリットが大きかった福祉用具。「必要だから使う」ではなく、「使用することを当然とした介護」の必要性を感じられた。次年度はもっと福祉用具を増やそう！



歩みを止めずに

ノーリフティング委員会を立ち上げ、施設全体で腰痛予防に取り組むぞというスタートラインによく立ちました。

ケアプランにも福祉用具を使用した介護の方法が少しずつ取り入れられ始め、必ず福祉用具を使う！ということを職員も意識し始めた。

しかし腰痛アンケート結果も1年目で思うような結果は出ておらず、連携がなかなか取れない、現場への浸透が出来ない、その他の課題、問題も山積みといった現状である。

その他の取り組み施設の報告を聞くと、なかなか進まない本施設の現状にもどかしさも感じます。

しかし、歩みを止めずにひとつずつ。
 「腰痛の職員をゼロにする！」という
 サンシャインプラザの未来のために

